

会計の仕組み

貸借対照表

建設時点

建設資金は借入金と県出資金で賄われ、建設した資産は道路資産と固定資産に区分し計上している。

固定資産	
道路資産	借入金等

供用中

利益相当額を償還準備金に積み立てる。
また、料金収入の10%(川平12%)を損失補てん引当金に引き当て、災害等不測の事態に備えている。

固定資産	減価償却累計額
道路資産	借入金等
	償還準備金

料金徴収期間満了時点

固定資産の残存価格を除却したうえで、償還準備金を道路資産と同額まで積み立て、無料開放となる。

固定資産	減価償却累計額
道路資産	除却
	償還準備金

損益計算書

単年度損益	
維持・管理費	料金収入等
減価償却費	
損失補てん引当金繰入額	
償還準備金繰入額(利益相当額)	

積み立て

※ 償還準備金

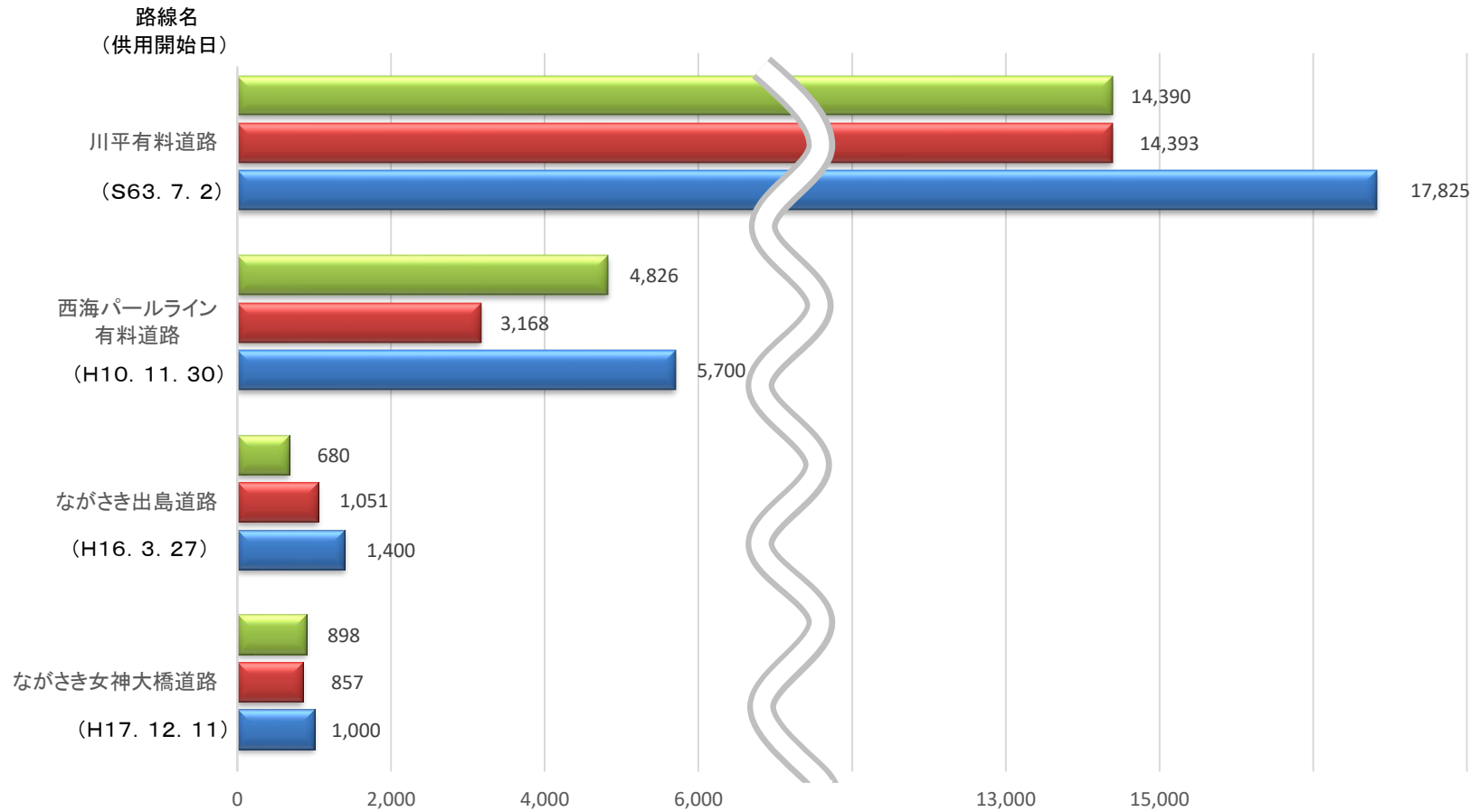
路線毎に積み立てを行い、他路線への充当は不可

※ 損失補てん引当金

路線全体の内部留保資金であり、料金徴収期間満了時点で、償還準備金が道路資産額まで積みあがらなかった場合に充当

償還準備金の計画と実績(令和7年度)

(単位:百万円)



※指標を単純化するため、建設費と比較している。

■許可計画 ■実績 ■建設費

R7年度償還準備金合計額
計画 : 20,794百万円
実績 : 19,468百万円